

ねじはファッション



川端ネジ製作所

代表自ら発案、カラフルねじ

「わずかな投資で他社との差別化が図れる」と川端謙二代表は得意先のメーカーやインテリア関係の企業に提案し、受注につなげている。

昭和28年の創業以来55年間、家族経営を貫く同社の主力製品は、工業用ミシン、レントゲン撮影装置用精密ねじ。そして平成の現在注目を集めているのは、川端代表が発案したカラフルなねじである。

一つひとつが個性的で、並ぶとポツポツと連想させる。イタリアで出展した際には「これはチョコレートではありません」という但し書きがつけられたほどだ。ブランド品の本場にあっても、ねじをデザインするという発想はなかったのだ。

創業以来 1個からオーダーメイド製作

今では美術品とみまがうほどのねじの作り手として広く知られる存在となった川端ネジ製作所。若い頃の川端代表は、たとえ1個の注文でもオーダーメイドで作る父親と絶えず衝突。根気のある地味な作業に飽き飽きしていた。何度となく「辞めよう」と思ったことがあるそうだ。

しかし30歳を過ぎて父の跡を継ぎ、その責任の重さに目が覚めた。

グッドデザイン賞受賞 「カラーネジ」

ちょうどその頃、横浜で企業向けのデザインの勉強会が月に1度開かれていた。思い切つて申し込む。「井の中の蛙が広い世界を知った瞬間だった」と、川端代表は当時を振り返る。そこでねじに色をつけることを思いつく。

学ぶ傍ら、東京の企業に飛び込み営業をかけては、デザインの一部に傷や凹みを応用した「カラーネジ」を売り込んだ。しかし発注してくるところは一件もなかった。「実績がない」ことが理由だった。

「それがきっかけで目先の利益を追うことをやめた」という川端代表は、展示会へ積極的に出品する方法に切り替えた。これが功を奏し、結果はグッドデザイン賞の受賞をはじめ、着実に賞を獲得ようになる。比例するように受注も伸びた。

小物から建物まで広がる用途

以後20年間、顧客の注文を納得のいく形になるまで試作品を作り続け、理美容ハサミのカラー指かけ、フック等の小物からホテル、駅のターミナルまで、同社が作りあげるねじの数々は、今では対象物や場所を問わず、使われるようになった。

そして号数でしか呼ばれていなかったねじに、クレヨンくん、ミス・シヤイン等と名付け命を吹き込んだ。ねじの名前が定着するように同社の挑戦は、これからが本番だ。

川端ネジ製作所

Company Profile

住所 / 〒577-0827
大阪府東大阪市衣摺4-9-11
創業 / 昭和28年4月
従業員 / 4名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6728-7570
FAX / 06-6728-2178



川端謙二さん
代表者

主な事業内容

工業用精密切削ねじ・ナット、セキュリティ・ネジの製造・販売、アートねじの企画・デザイン企画開発・製造・販売等



<http://www.art-neji.com/>